

事務局報告

第11回(2002年度第1回)幹事会議事要録

日時:2001年10月20日 9:00~10:30

場所:北海道教育大学函館校

出席者:辻会長,樋泉広報・渉外幹事,植村編集委員長,西田編集副委員長,半田行事委員長,寺田行事副委員長

1. 2001年度の事業報告および会計報告・会計監査報告を最終確認した。
2. 編集委員会の委員の選出と委嘱を早急に行うこととした。また,行事委員会はこれまで委員長・副委員長で構成されていたが,組織的な活動を行うために若干名の委員を選出し,委員会を組織することにした。
3. 名誉会員の推薦規定および論文賞の規定を2002年度の早い時期に作成し,2002年度評議委員会・総会での承認を目指して検討することにした。
4. 「植生史研究」の刊行を定期化し,4月と10月に刊行することを決めた。
5. 財政問題の検討項目として「植生史研究」の印刷などを検討することとした。
6. 談話会を本学会の独立した行事とし,2002年5~7月に開催できるよう検討を進め,次回の幹事会で具体的な内容を決定することとした。
7. 幹事会の開催をこれまでの年2回から年4回に増やし,定例化することとした。開催時期は,原則として3月,6月,9月,12月とする。

2001年度評議委員会議事要録

日時:2001年10月20日 11:00~12:30

場所:北海道教育大学函館校

出席者:辻会長,百原,守田,能城,大井,沖津,鈴木,高原評議員;樋泉広報・渉外幹事,植村編集委員長,半田行事委員長

1. 第3期の役員を報告した(総会記事参照)。
2. 2001年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。
3. 2002年度事業計画の幹事会案を審議した。おもな案件は以下の通りである。
 - 1) 会員名簿を改訂・発行する。これは2001年度事業であったが,会費納入状況の整理と名簿改訂に時間を要したため,発行を2002年度に行う。
 - 2) 日本学術会議会員選出のための学術研究団体登録を引き続き行う。
 - 3) 名誉会員の推薦規定を作成する。その際,現会員を対象とすること,規定はゆるやかにすること,訃報な

ど学会記事との関連もあわせて検討することにした。

- 4) 学会賞(論文賞・奨励賞など)を設定し,規定を作成する。若い研究者の奨励に加えて広範囲に優れた論文・功績を顕彰することも検討する。
- 5) 「植生史研究」第10巻2号を刊行,第11巻第1号・第2号を編集・刊行する。
- 6) 「植生史研究」の発行を4月と10月の年2回に定期化する。
- 7) 第20回談話会は,これまでのような日本生態学会の自由集会としてではなく,独自の行事として開催する。
- 8) 2002年度の第17回大会を2002年11月16・17両日に福井県立恐竜博物館において開催する。
- 9) 2003年度の第18回大会を岡山理科大学において開催すべく準備を進める。
- 10) 賛助会員の入会を促し,氏名・機関を会誌に掲載することなどを検討する。
- 11) 学会ホームページを開設し,学会記事や関連学会のニュースなどを公開する。

第16回日本植生史学会大会(報告)

場所:北海道教育大学函館校(函館市八幡1-2)

大会実行委員会:紀藤典夫(委員長),木村勝彦・半田久美子(委員)

日程:10月20日(土)9:00~10:30 第11回幹事会,11:00~12:30 2001年度評議委員会,14:00~17:00 一般研究発表・ポスターフラッシュ・ポスター発表,18:00~20:00 懇親会「ホテルリードコア」にて。10月21日(日)9:00~11:40 シンポジウム(前半),11:40~13:10 総会と昼食,13:10~15:10 シンポジウム(後半)。

シンポジウム 『冷温帯林の背腹性と中間温帯論』

中静 透:趣旨説明

本間航介:ブナ林の背腹性とその成因

大住克博:北上山地の冷温帯林の成立過程

内山 隆:日本の冷温帯林および中間温帯林の成立史

一般研究発表,ポスター発表(P)

1. カムチャッカ半島およびベーリング島における完新世の植生変遷史(五十嵐八枝子・曾根敏雄・大月義徳・山縣耕太郎・西城 潔・五十嵐恒夫・Muravyev, Y. D.・Ovsyannikov, A. A.)
2. 極東ロシアにおけるカバノキ属3種(*B. exilis*, *B. ovalifolia/middendorffii*, *B. ermanii*)の分布と森林タイプ(沖津 進)
3. 気候の温暖化に伴う針葉樹林の消滅と落葉広葉樹林の

成立：北海道南部における 12000 ~ 8500 cal yr BP の変化について（紀藤典夫・新谷世生子）

4. 山陰地方中央部における縄文中期の古植生と気候変化（渡辺正巳）
5. 新潟平野南部の砂丘湖（佐潟）とその周辺の完新世古環境変遷（百原 新・藤木利之・澤井祐紀・那須浩郎・林 成多）
6. トマトの自殖弱勢から推定される北海道西南部地域の分布の消長（生方正俊・河野耕蔵）
7. 武蔵野台地，国際基督教大学構内のコナラ林におけるコナラの花粉粒生産量（清永丈太）
8. ワシントン州西部森林帯域内に散在する小草原の起源（塚田松雄）
- P1. 石鎚山地瓶ヶ森および伊吹山における過去約 1,000 年間の植生変遷 - 特にササ草原の成立過程について - （三宅 尚・関 拓人・載寧由香・増淵勝也・石川慎吾）
- P2. プナの開花のメカニズムを探る - 個体間の開花はなぜばらつくのか - （今 博計・小山浩正・寺澤和彦・八坂通泰・長坂 有）
- P3. 美幌峠（北海道）のササ草原はいつ成立したか？（佐瀬 隆・細野 衛・鬼丸和幸・星野フサ・渡邊真紀子）
- P4. ネパール，カトマンズ盆地の更新世化石花粉群（大井信夫・酒井哲弥・田端英雄）
- P5. 三重県多度町および四日市市に分布する東海層群から産出した大型植物化石（塚腰 実・森 勇一）
- P6. 関東地方におけるコナラの果実形態の変異について（岩淵祐子・星野義延）
- P7. 年輪からみたクリの生育環境の推定（村越健一・木村勝彦）
- P8. 超高解像度 X 線 CT スキャナの植物化石研究への応用（西田治文・碓田昌弘・平井秀和）
- P9. 初めて手取層群（下部白亜系）から発見された木生シダ化石（寺田和雄・関戸信次・西田治文）

2001 年度総会議事要録

日時：2001 年 10 月 21 日 11：40 ~ 13：10

場所：北海道教育大学函館校

議長：高原 光

1. 報告事項

1-1. 第 3 期の役員（別表を参照）

1-2. 庶務. 1) 会員動向: 2001 年 10 月 20 日現在, 会員 393 名 (学生会員 11 名). 2) 2000 年 11 月 25 日に改訂した会則および新たに制定された会長・評議員選挙規程に基づいて, 会長・評議員の選挙を行った. 3) 名簿改訂のため, 記載事項の追加・修正の調査を実施した.

1-3. 編集。「植生史研究」第 9 巻第 1・2 号, 第 10 巻第 1

号を編集し, 刊行した. また, 第 10 巻第 2 号を編集した.

- 1-4. 行事. 1) 第 15 回大会を 2000 年 11 月 25・26 日, 滋賀県立琵琶湖博物館において開催した. 大会実行委員長: 布谷知夫. 2) 第 19 回談話会を 2001 年 3 月 30 日, 17:30 ~ 20:00, 熊本大学での日本生態学会の自由集会として開催した. 3) 第 16 回大会を 2001 年 10 月 20 ~ 21 日, 北海道教育大学函館校において開催すべく準備した. 大会実行委員長: 紀藤典夫.

1-5. 会計

1) 2001 年度決算報告.

収 入		支 出	
会費	1,222,000	会誌発行費	1,382,814
会誌売上	55,000	編集経費	48,910
利息	159	選挙経費	41,624
		事務経費	18,987
収入合計	1,277,159	支出合計	1,492,335
前年度繰越金	222,253	次年度繰越金	7,077
合 計	1,499,412	合 計	1,499,412

2) 2001 年度会計監査報告。「日本植生史学会 2001 年度収支の諸帳簿, 預金通帳および諸書類などを厳正に監査したところ, 適正に処理されていましてので報告します. 会計監査: 車崎正彦」

2. 審議事項

2-1. 名誉会員の選出規定を作成すること, および学会賞の設定を検討することが提案され, 承認された.

2-2. これまで主に日本生態学会の自由集会として開催されてきた談話会を, 今後は本学会の独立の行事として開催すること, 第 20 回談話会については, 2002 年 5 月から 7 月に開催すべく内容を検討し, 幹事会の審議を経て実施することが承認された.

2-3. 2002 年度予算案. 下記の予算案 (2001 年 10 月 ~ 2002 年 9 月) が賛成多数で承認された.

< 第 3 期日本植生史学会役員 >

収 入		支 出	
会費	1,633,000	会誌発行費	1,261,000
会誌売上	43,000	編集経費	150,000
雑収入	200	大会準備金	100,000
利息	200	事務経費	150,000
		予備費	22,277
収入合計	1,676,200	支出合計	1,683,277
前年度繰越金	7,077		
合 計	1,683,277	合 計	1,683,277

(任期 2001 年 10 月 ~ 2003 年 9 月)

会長：辻 誠一郎

評議員：松下まり子，百原 新，守田益宗，能城修一，沖津 進，大井信夫，鈴木三男，高原 光，山田昌久 (abc 順)

会計監査：中静 透

幹事：江口誠一 (庶務)，斎木健一 (会計)，樋泉岳二 (広報・渉外)

編集委員会：植村和彦 (委員長)，西田治文 (副委員長)

行事委員会：半田久美子 (委員長)，寺田和雄 (副委員長)

第 12 回 (2002 年度第 2 回) 幹事会議事要録

日時：2001 年 12 月 22 日 15:30 ~ 18:00

場所：国立歴史民俗博物館

出席者：社会長，江口庶務幹事，斎木会計幹事，樋泉広報・渉外幹事，西田編集副委員長，半田行事委員長

1. 学会賞を設け顕彰することについては、「学会賞」と「奨励賞」を新たに設け，それぞれの表彰規定案を準備することにした。また，名誉会員の推薦規定 (会則第 4 条 b) を見直し，その改正案を用意することにした。
2. 第 20 回談話会を，故粉川昭平元会員にちなんだ内容で，2002 年 3 月に大阪市立大学で開催することを了承した。開催費用は学会予算とは別に独立採算とする。
3. 第 17 回大会 (福井県立恐竜博物館) の企画素案が行事委員長から紹介された。大会シンポジウムの内容については，従来よりも関連分野を取り込んだものや普及的な内容も考慮することとした。
4. 学会財政の健全化のため，頁超過料・別刷印刷代の見直しを検討することにした。関連して，総説記事の充実や会員動向など，会誌の役割と内容の充実も検討する。

第 13 回 (2002 年度第 3 回) 幹事会議事要録

日時：2002 年 3 月 2 日 14:00 ~ 18:00

場所：千葉県立中央博物館

出席者：社会長，江口庶務幹事，斎木会計幹事，樋泉広報・渉外幹事，植村編集委員長，西田編集副委員長，半田行事委員長

1. 学会賞・奨励賞の設置および名誉会員に関する会則の改正案を審議した。
2. 11 巻 1 号の編集状況の報告があった。また，会誌充実の方策，超過頁代の扱いについて意見を交換した。
3. 第 20 回談話会を，「日本の第四紀植物学と考古植物学の発展 - 粉川昭平先生の足跡と貢献」と題して，2002 年 3 月 9 日，大阪市立大学学術情報総合センターで開催することを会員に通知した。演者は谷口 誠，石田志

朗，百原 新，金原正明，南木睦彦の各氏，世話人は辻，南木，百原，松下，能城，大井，田村，塚腰，半田があたる。

4. 第 17 回大会のシンポジウム案と準備状況の報告があった。
5. 学会のニュースを迅速に周知させるため，ニュースレターを発行することとした。4 月・10 月の会誌刊行を考慮し，12 月もしくは 1 月に発行する。担当は広報幹事。
6. 会員名簿は会誌第 11 巻 2 号と同時配布の予定，現在チェックを進めている。
7. 購読会員の年会費は 4,000 円の据え置き，雑誌販売は 10 巻以降，1 冊 1,500 円とすることを申し合わせた。
8. 第 9 回加速質量分析国際会議の後援を承認した。

第 14 回 (2002 年度第 4 回) 幹事会議事要録

日時：2002 年 6 月 1 日 14:00 ~ 17:00

場所：千葉県立中央博物館

出席者：社会長，江口庶務幹事，斎木会計幹事，樋泉広報・渉外幹事，植村編集委員長，西田編集副委員長

1. 日本学術会議第 19 期会員推薦のための学術研究団体登録について，地質科学総合研究連絡委員会を第 1 希望として申請した。
2. 学会賞と奨励賞の表彰規定案の継続審議を行った。また，名誉会員については，事前に各評議員の推薦を依頼することにした。
3. 会誌第 11 巻第 1 号・2 号の編集状況と，第 1 号の発行が遅れていることの報告があった。編集書記は松本みどり氏にお願いすることにした。
4. 第 17 回大会開催案を了承した。シンポジウムは「考古? 生態? 進化? 総合科学としての植生史学を考える」を企画した。

第 15 回 (2002 年度第 5 回) 幹事会議事要録

日時：2002 年 10 月 5 日 14:00 ~ 17:00

場所：千葉県立中央博物館

出席者：社会長，江口庶務幹事，斎木会計幹事，樋泉広報・渉外幹事，植村編集委員長，西田編集副委員長，寺田行事副委員長

1. 9 月末の会員動向，会費納入状況，会計収支の報告があった。
2. 評議員会に諮る表彰規定の設置案，名誉会員に関する会則改正案，および名誉会員の推薦について確認を行った。
3. 2003 年度事業計画案と予算案を審議した。
4. 会誌第 11 巻第 1 号の出版が遅れていること，11 巻第 2 号は順調に編集が進んでいることの報告があった。頁

- 超過料，別刷代の問題は，現在の投稿状況や本学会誌の性格から変更については継続課題とすることとした。
5. 第17回大会の開催通知を会員に送付した。
 6. 広報渉外幹事から，第17回大会案内を生物科学ニュー

スほかにニュースを流したこと，本学会のホームページを学協会情報発信サービス（国立情報学研究所）に立ち上げるべく準備を進めていることの報告があった。